

トマト・ミニトマト今後の管理

【追肥】

低温期に入り一度に多量の成分を施肥しても吸収されないで、樹勢をみながら液肥・葉面散布で調整する。

液肥灌水については、水は少量でチッソ成分10a当り1kg以内とし、また、葉が薄くて軟弱な圃場では、花の充実が悪くなりやすいのでリン・カリ・微量要素等が多目の液肥・葉面散布などで対応してください。

【防除】

現在、施設内が多湿圃場で灰色カビ・疫病が発生しやすい時期となりました。

今後、低温、日照不足により病害多発生が予想されますので発生前から定期的な防除とこまめな換気を行いましょ。晴天日は防除優先!

マルハナバチ交配では影響日数を考慮し薬剤を選定してください。

【葉かぎ】

収穫段に合わせて下葉かぎを早めに実施し株元の通気をよくし加温時の温度ムラ・病害対策に努めましょ。

斜め誘引により中下段の果実が葉で隠れている圃場は、果実が見える程度に葉かぎを行い、光があたるようにして下さい。特に『りんか409』については、低温期に入り着色・生育の遅れが予想されます。

注：曇雨天日の葉・芽かぎはナンプ病・灰色かび病の発生源となります。また、一度に多量の葉かぎは樹勢低下につながるので注意ましょ。

【温度管理】

今後、日照不足も加わり低温度管理は着色・生育遅や疫病、灰色カビなどの病害発生につながります。

特に夜温10℃を下回る低温管理は避け、マルハナバチ導入圃場では、夜温12℃は確保してください。

【交配】

低温日照不足では、花は咲いても花粉が出ずにマルハナバチで着果しない場合が毎年みられます。

確実な着果をするためには、ホルモン処理が必要となりますので1月～2月は状況を見ながらマルハナバチ交配から一時的にホルモン処理へ切り替えてください。ホルモン処理濃度は100倍が基本です。

注：曇天日のホルモン処理は交配後に乾かない場合は、灰色カビの発生原因となりますので必ず晴天日に行ってください。

【水管理】

灌水後は地温低下・施設内の湿度上昇となります。晴天日で換気ができる状態のときに少量多回数として下さい。

注：曇天日の灌水は根傷みや病害発生要因

※今後、1月～2月の管理が3月以降の出荷量に大きく影響しますので、管理不足にならないよう頑張りましょ。

ストップ! 農作業事故

人間工学専門家 石川文武

新規就農者、定年帰農者への注意喚起

農業が機械化され、土地利用型農業を中心として省力化が進み、農家子弟が他産業に従事し、日本経済を支えているのが現状です。しかし、親が高齢になり後継者となるべく就農する人や、他産業で定年となり地元へ帰って就農する人が増えつつあります。それぞれが経済活動に貢献することは喜ばしいことではありますが、半面、新規就農者や定年帰農者が就農して間もなく農作業事故を起こす事例が後を絶ちません。

事故の状況を分析すると次のような直接的・間接的原因が浮かび上がります。引き継いだ機械類のメンテナンスや安全装置が不十分である場合、新規購入するには資金が足りず、中古農機を導入する際に安全装備が不十分な場合、農業にも労働安全衛生の配慮が必要だという意識が低い場合、3月に退職して4月からすぐ農作業に取り掛かり、必要な技術研修を受けていない場合、などです。

労使関係が確立した職場では、労働安全衛生教育を定期的に受けたはずなのに、農業にそれを取り入れず、

危機管理を放棄してしまうことが大きな比重を占めており、それが事故に結び付いています。例えば「なぜトラクターには左右のブレーキが単独で作用できるようになっているのだろうか」を理解せずに作業をすれば、圃場(ほじょう)内で左右連結した状態では円滑に旋回できませんし、連動解除をして円滑な作業をした後に、移動などで再連結を失念して道路走行をして、停止時に片ブレーキを踏み、転倒・転落することにもなります。また、安全フレームのない中古トラクターの場合には転倒したら下敷きになってしまいます。

農業は自然の影響を強く受け、工業のように要求される精度やばらつきは許容量が違います。そのことが丁寧な農作業を行うことから離れてしまう一因でもあります。安全装備のある機械をそろえ、必要な技術研修を受けることを忘れないで下さい。



獅子座

7/23 ~ 8/22

- 【全体運】 ちょっとしたことでイライラ気味。
- いつも笑顔を心掛ければ、次第に運氣回復へ。
- 持ち前の大らかさを発揮して

- 【健康運】
- 自分によく合う体操や食材に出合えそう
- 【幸運を呼ぶ食べ物】 レモン